

めぐみイエス・キリスト教会

2024年4月7日(日)第一主日特別礼拝

午前10時より

週報「通算第702号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 354
- 【交読文】 No.41 詩篇第127篇 p. 912
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌467「世の終りのラッパ」 p. 752
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ビジョン」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書2章1節～11節
- 【礼拝説教】 《仕えるしもべの恵み》
- 【聖餐式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所（ヨハネの福音書2章1節～11節）

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたは私と何の関係がありますか。私の時はまだ来ていません。」

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メートル入りのものであった。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところを持って行きなさい。」彼らは持って行った。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、

2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。

お知らせ

※今日は、日本国際飢餓対策機構総主事の近藤高史先生が、報告とメッセージをさせていただきます。また、昨年につき、松本望美宣教師も礼拝に参加してさせていただきます。何と嬉しいことなのでしょう。

なお、次回4月14日(日)は、通常通り、午前10時から行ないます。